

あしきやま

みやじだけ

「悪木山（現・宮地岳）」

あしきやま

こぬれ

悪木山 木末ことごと 明日よりは

なび

靡きてありこそ 妹があたり見む

卷十二—3155 作者 未詳

（解説）悪木山よ、邪魔な梢こずえ、その梢のすべてを、明日からは靡なびき伏せておくれ

妹の家のあたりを見やりたいから。の意。

・この歌は山に向かつて、目を遮おさる梢を靡かせてほしいと願った歌。

・歌の分類は「羈旅（きりよ）に思を發（おこ）す」即ち、旅先にあつて思いを述べた歌。の中にあり「旅先で遠く離れた自宅とそこに残した妻に思いを馳せるという」ものであるとの説がある。

・この歌に詠われている「悪木山」は、筑前国御笠郡阿志岐（現・福岡県筑紫野市阿志岐・吉木）東方にある宮地岳を指す説がある。

なお、「悪木」の表記には、視界を遮る山を憎む気持ちが入められている。

・この宮地岳のある筑紫野市は博多湾に面する福岡市の中心部から南に約15km離れた福岡県の中央部に位置し、市域の南西部は佐賀県に接する。

・筑紫野市の中心付近を通るJR鹿児島本線の二日市駅から北東へ約2km行くと周囲を山に取り囲まれた阿志岐・吉木の平野が広がる。この辺りが万葉時代に「阿志

岐」と呼ばれた地に比定されている。

その平野の真ん中を菅原道真が祀られていることで有名な太宰府天満宮の北東背後にそびえる「宝満山（830m）」の麓に源を発し、万葉集（巻八―1531）にも詠われている清流・蘆城川（現在の宝満川）が北東から南西へ流れ九州一の大河「筑後川」に合流し有明海に注いでいる。

【筑紫野市吉木集落河岸から宝満川上流を望む。】



・この古代の蘆城川（現在の宝満川）が筑紫野市吉木・阿志岐地域を流れている兩岸に開けている阿志岐の平野には弥生時代から古代までの遺跡が広く分布しており総称して「御笠遺跡群」と呼ばれている。

・昭和53年（1978）に、この地域一帯の埋蔵文化財発掘調査で、吉木の集落から約200m東へ入った市道脇の水田下から奈良く平安時代のものと思われる建物跡が発見された。この建物群は「蘆城あしぎのうまや駅家跡」と推定されている。「駅家」とは古代、

中央政府と地方の連絡のために諸官道に原則30里（現在の16km）ごとに置かれた駅のことです。駅には馬などが備えられていた。

・今、「蘆城駅家跡」ではないかと推定される場所は奈良時代に①九州と壱岐・対馬・種子島（九国三島）を治め、また、外国に対して国を守る辺境防衛などを司っていた大宰府政庁跡から南東へ約3・5kmと近い地にある。蘆城駅家は万葉集に詠われている歌などから大宰府から京に向かう際などで瀬戸内海にある周防灘に向かう豊前路の基点的位置にあった駅家の役割を果すと同時に、大宰府官人の宴の場であったと考えられる数首の万葉歌（巻四及び巻八）がある。

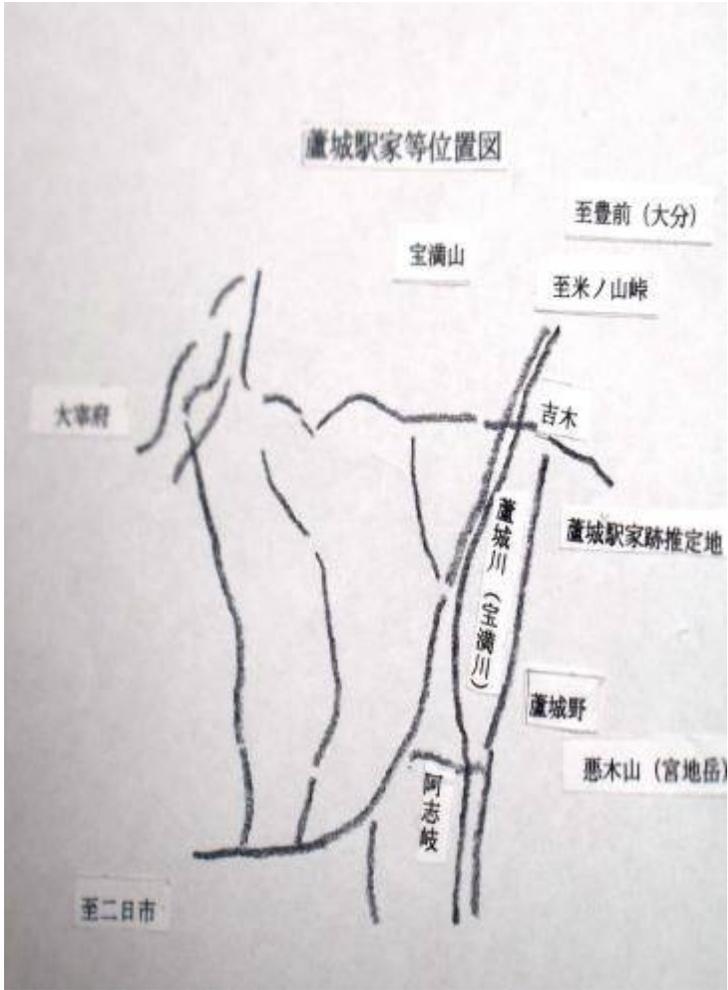
・この古代の蘆城駅家跡推定地がある阿志岐平野の東側には、標高338mのこの万葉集に詠われている「悪木山（現在の宮地岳）」がある。山頂に宮地岳神社、南麓に装飾古墳などが点在する歴史豊かな山であるが、さらに近年、この宮地岳の西麓を中心に、古代山城と考えられる遺構が発見され、「宮地岳山城」として認識されるようになった。

・現在見つかっている遺構には山城跡の水門跡、城門跡など推定されるような石列が発見されているが全体の構造については、まだ判明していないが、今、西側に蘆城駅家推定地があり、また、設置位置から「日本書紀」などの文献に載る大野城、水城、基肄城と共に、大宰府を防衛する拠点の一つであったのではないかとの推定もなされている。

（写生地）近年、筑紫野市大字吉木の水田下で発掘された古代の駅家「蘆城駅家跡」と推定されている水田の畔地あぜから東にそびえる今回の万葉集に詠まれている「悪木山（現在の宮地岳）」を描く。（池田杏花）

(参考文献)

伊藤博著「万葉集釈注六」(神野志隆光著「万葉集を読むための基礎百科」九州国立博物館「西都太宰府・西都史跡名所案内」など。



・悪木山(宮地岳)位置図

